

PR資料

 ARAYA

Company Profile

認知神経科学の研究者が設立

脳技術を併せ持ったAI開発企業

社名 株式会社アラヤ

設立 2013年12月

所在地 東京都千代田区神田佐久間町1-11
産報佐久間ビル6F

社員数 約90名

事業内容 AIプロダクト開発/
ニューロテックプロダクト開発事業



KANAI Ryota

金井 良太 (代表取締役)

Career

- 京都大学理学部卒業
- オランダ・ユトレヒト大学で実験心理学PhD取得
- 米国カリフォルニア工科大学にて、視覚経験と時間感覚の研究に従事
- 前英国サセックス大学准教授（認知神経科学）

The Future We want to Realize

AI×ニューロテックで 人類の未来を圧倒的に面白く



独自のアルゴリズムで
高度な自動化を実現する



BMI*や人の脳状態センシング
で人類の能力を拡張する

オーダーメイド型AI開発

AI開発で直面する課題に対し、
豊富な人材で共に課題解決を目指します



AIを現場実装するまでのあらゆる課題を解決

お客様のニーズに合わせたAI開発をオーダーメイドで行います。
AIの活用方法や技術は幅広く、お客様のお悩みにフィットしたAIソリューションはなかなか見つかりません。
アラヤのオーダーメイド型AI開発なら、最適なチーム編成で直面するあらゆる課題を解決します。

アラヤのオーダーメイド型AI

年間100案件を超える豊富な知見から得た
お客様だけの現場実装を実現



研究者やエンジニアなど様々なプロフェッショナルで
結成された最適なチーム



お客様のお悩みにフィットした
アラヤの課題解決



構想に潜む『課題』を見抜き価値あるAI導入を実現

どれだけ丁寧に検討しても、専門的な視点がなければ見落とすリスクがあります。

アラヤはPoC前から導入構想の精度を高め、業務課題と技術実装のズレを解消。

成功確率の高いAI導入プロセスを共に設計します。

STEP 01

お客様の課題や
現場・業務プロセスに
ついてのヒアリング

STEP 02

コンサルティング、
ソリューション、
プロダクトを駆使した、
多角的視点による
AIの提案・開発

STEP 03

クライアントの現場実装と
実際の体験を通して
より確かな価値を提供。

STEP 04

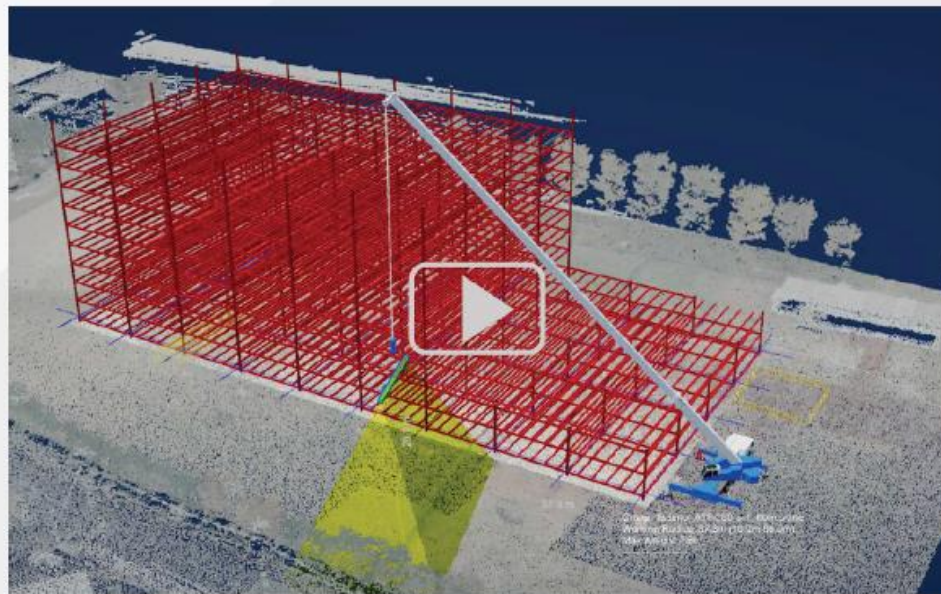
AIの性能を
上げるための分析と
ニーズに合わせた改善



BIM/CIM連携3Dシミュレーター



メーカーに依らず、ユーザー保有のクレーンモデルに「巻上 / 旋回 / 起伏」の動きを付与し、
3D の動的なシミュレーションが可能です



メリット

- ✓ 関係者間の認識合わせが容易
- ✓ 計画ミスや不安の解消

社外



説明会での同意

社内



計算ミス



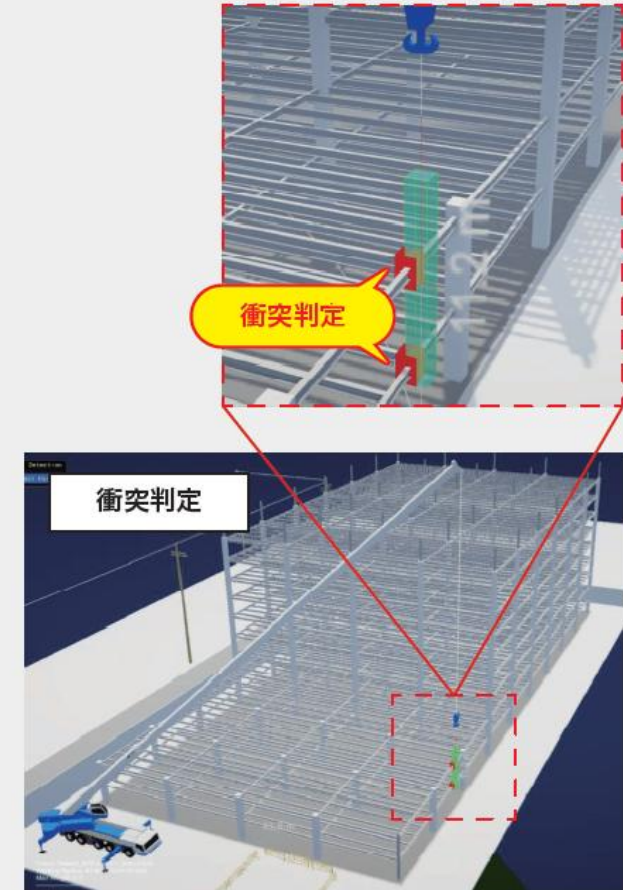
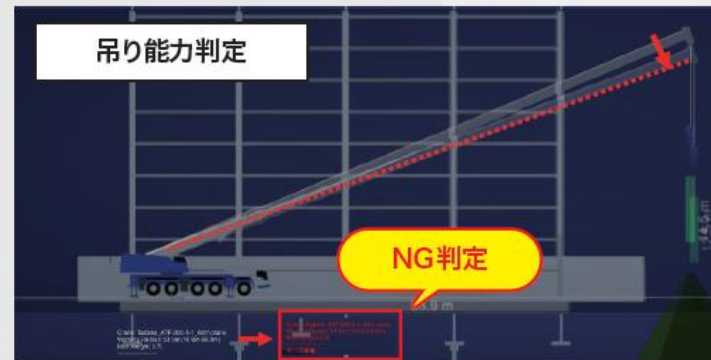
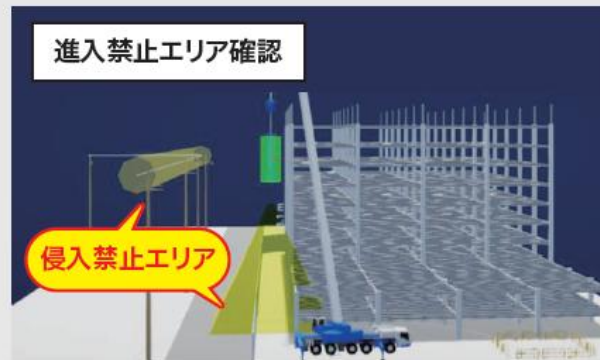
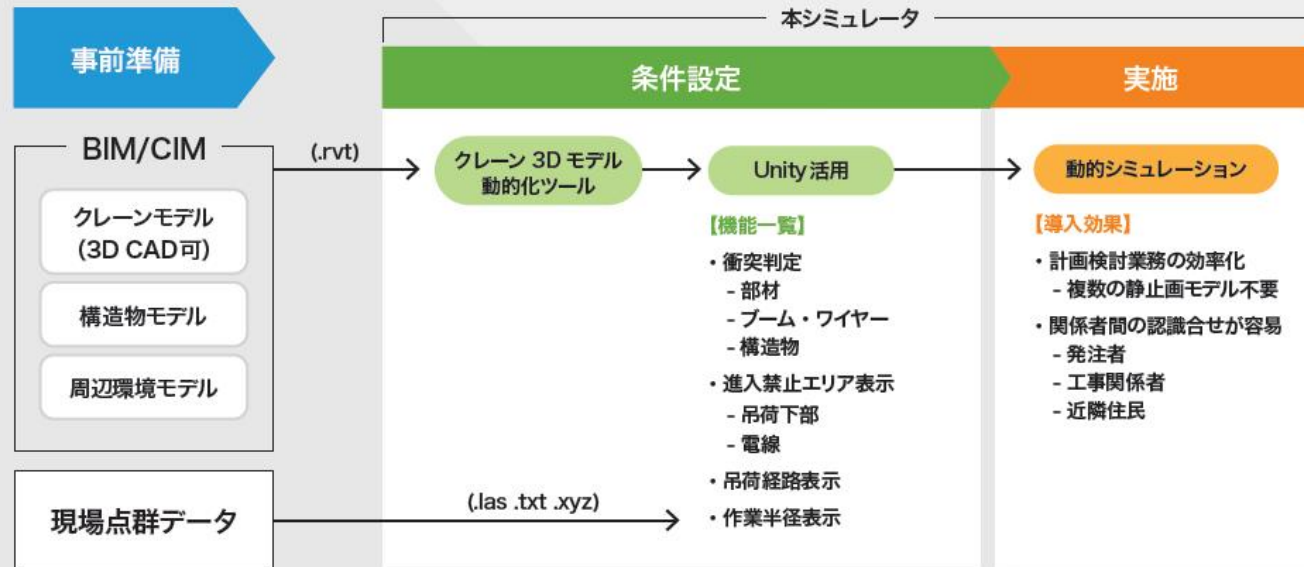
確認ミス



正解か不安

概要：BIM/CIM連携クレーンシミュレーター

衝突判定や吊り能力判定などを動的に実施し、計画検討を高度化



※表示のクレーンモデルは、株式会社タダノ様の BIM データを活用 (クレーンモデル以外はアラヤ開発)

空調・熱源最適化AI

“ConsciousAir”

コンシャスエアー：意識を持つ空気



課題	空調の電気代や熱源のエネルギー消費、CO2排出を削減したい
解決方法	空調/熱源を最適化する“ConsciousAir”で省エネ運転！

対象

セントラル空調

地域冷暖房 (DHC)

個別空調

*比較的、大規模の建物/施設で省エネが期待

特徴

建物へ後付けで導入が楽！

予測AI & 制御AIで高精度な運転！

自動再学習機能で運用が楽！

- 既存運転を止めずに導入可能
- 現状データや現環境からスタート可能 (追加センサや改修は基本無し)
- 定期的な自動再学習で、高精度なAIへ自動アップデート



導入 Step

データ確認

シミュレーション検証

実環境での調整・評価

運用

自動再学習

費用

無償

導入費

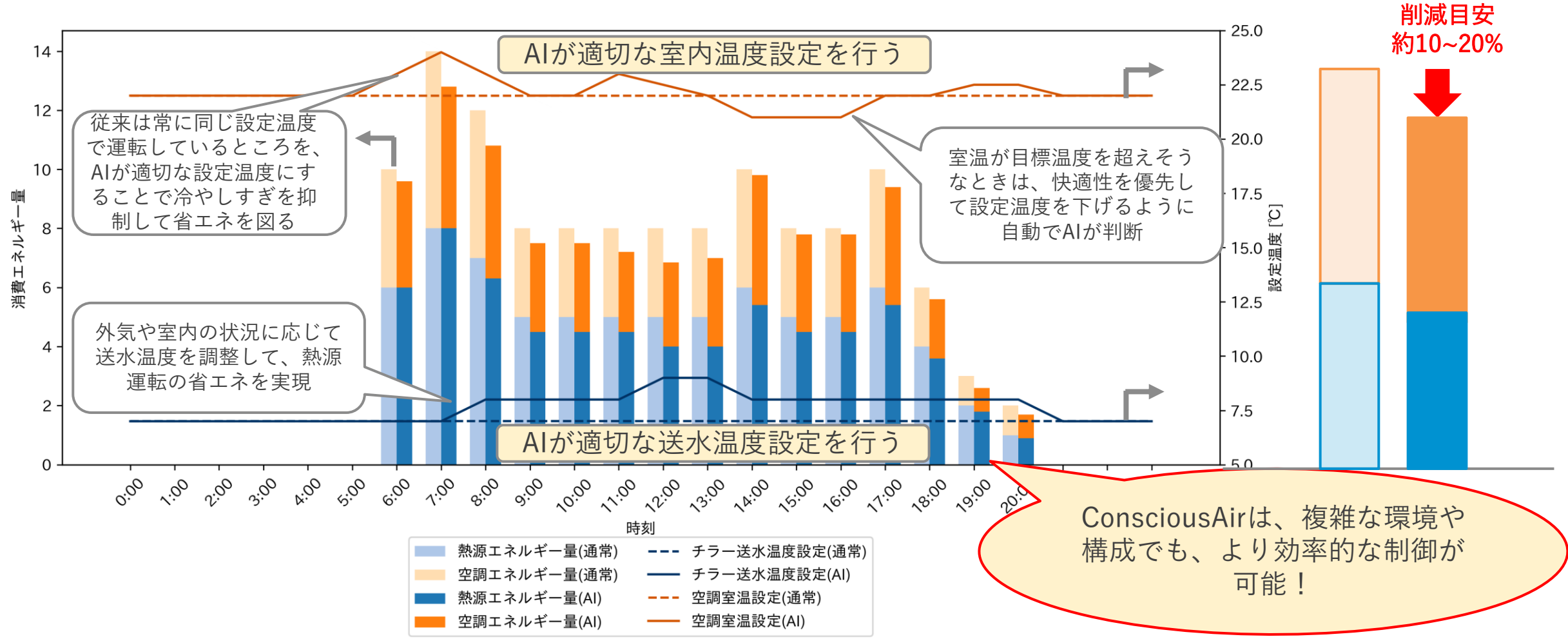
運用費

(導入費 + 運用費) < コスト削減金額 & 回収4,5年程度の費用設定

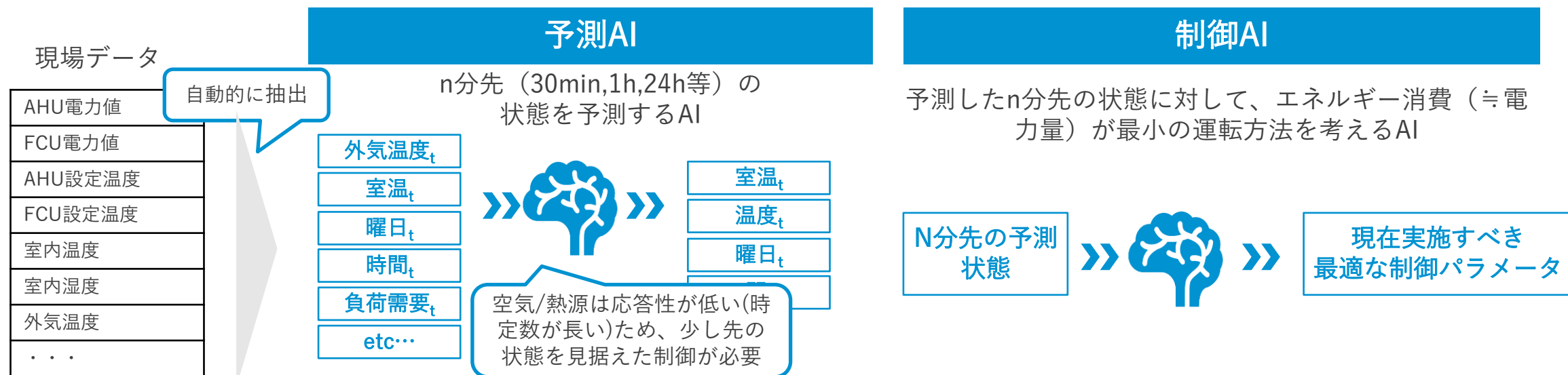
事例

- 某オフィスビルの電力消費量を12%削減 (冷房時期)
- 大規模商業施設での一部エリアで運用中
- 東邦ガス様、日建設計様等と、AIでCO2やコストを削減する「AI地域冷暖房」を実証実験

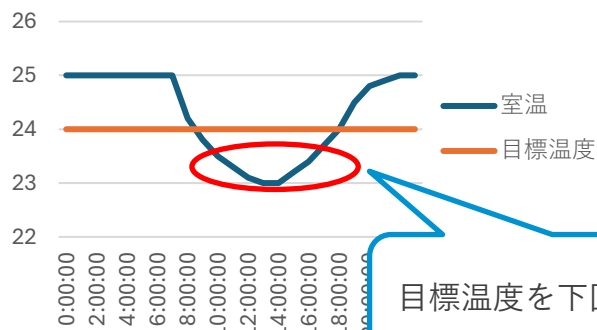
貴社の現状の運転で省エネできる部分や運転パターンをアラヤの空調・熱源最適化AIが探し出し、現状よりも省エネ運転を可能にします。



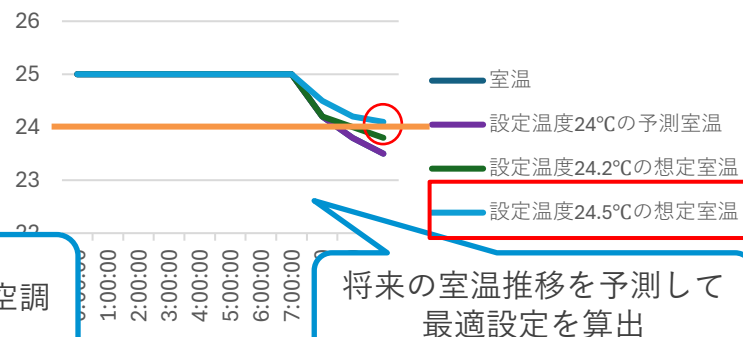
「予測AI」と「制御AI」を利用することで、ルールベースでは対応できない複雑な環境下でも、細かく最適な制御を実施することができる。



1. 通常運転時の室温推移



2. x時時点でのAIの予測



3. AI最適化した際の室温推移

